

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 10-069107

(43) Date of publication of application : 10.03.1998

(51) Int.CI.

G03G 5/06

G03G 5/06

(21) Application number : 08-226621

(71) Applicant : MITSUBISHI PAPER MILLS LTD

(22) Date of filing : 28.08.1996

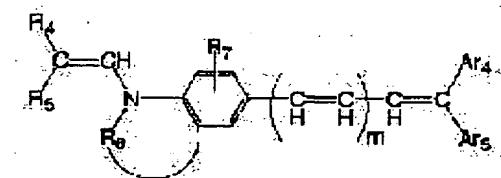
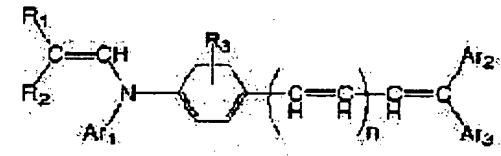
(72) Inventor : HORIUCHI TAMOTSU
TANIGUCHI TOMOKO

(54) ELECTROPHOTOGRAPHIC PHOTORECEPTOR

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To ensure high sensitivity and stable performance even after repeated use by using a phthalocyanine as an electric charge generating material and at least one of specified enamine compds. as an electric charge transferring material.

SOLUTION: This electrophotographic photoreceptor has a photosensitive layer contg. phthalocyanine as an electric charge generating material and at least one of enamine compds. represented by formulae I, II as an electric charge transferring material. In the formulae, each of R₁, R₂, R₄ and R₅ is alkyl which may have a substituent, aryl which may have a substituent or a hetero ring which may have a substituent, each of R₃ and R₇ is H, halogen, alkyl which may have a substituent or alkoxy, each of (n) and (m) is an integer of 0-2, Ar₁ is alkyl which may have a substituent, aralkyl, aryl or a hetero ring, each of Ar₂, Ar₃, Ar₄ and Ar₅ is H, aryl which may have a substituent or a hetero ring and R₆ is a group of atoms required to form a ring in combination with N.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.06.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 21.04.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-69107

(43)公開日 平成10年(1998)3月10日

(51)Int.Cl.⁶
G 0 3 G 5/06

識別記号 3 1 3
府内整理番号 3 7 1

F I
G 0 3 G 5/06

3 1 3
3 7 1

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数11 O.L (全 25 頁)

(21)出願番号 特願平8-226621

(22)出願日 平成8年(1996)8月28日

(71)出願人 000005980

三菱製紙株式会社

東京都千代田区丸の内3丁目4番2号

(72)発明者 堀内 保

東京都千代田区丸の内3丁目4番2号三菱
製紙株式会社内

(72)発明者 谷口 智子

東京都千代田区丸の内3丁目4番2号三菱
製紙株式会社内

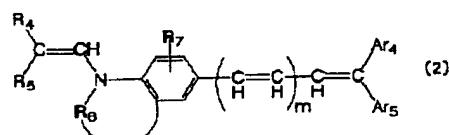
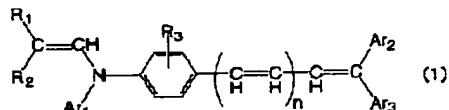
(54)【発明の名称】電子写真感光体

(57)【要約】

【課題】高感度かつ繰り返し使用しても安定な性能を発揮できる電子写真感光体を提供すること。

【解決手段】導電性支持体上に電荷発生物質、及び電荷輸送物質を構成成分として含む感光層を有する電子写真感光体において、電荷発生物質がフタロシアニン類、電荷輸送物質が下記一般式(1)、(2)で示されるエナミン化合物の少なくとも一つであることを特徴とする電子写真感光体。

【化1】



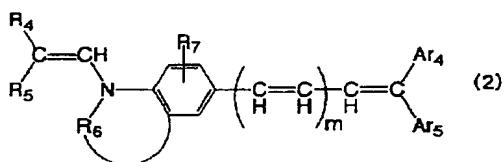
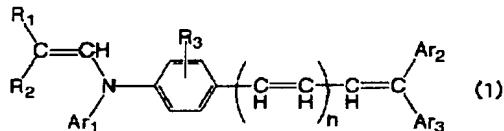
一般式(1)、(2)において、R₁、R₂、R₄、R₅は

それぞれ置換基を有していてもよいアルキル基、アリール基、複素環を示し、R₃、R₆は水素原子、ハロゲン原子、置換基を有していてもよいアルキル基、アルコキシ基を示す。n、mは0～2の整数を示す。Ar₁は置換基を有していてもよいアルキル基、アラルキル基、アリール基、複素環を示す。Ar₂、Ar₃、Ar₄、Ar₅はそれぞれ水素原子、置換基を有していてもよいアリール基、複素環基を示す。また、R₆は窒素原子と共に環を形成するのに必要な原子群を表す。

【特許請求の範囲】

【請求項1】導電性支持体上に電荷発生物質、及び電荷輸送物質を構成成分として含む感光層を有する電子写真感光体において、電荷発生物質がフタロシアニン類、電荷輸送物質が下記一般式(1)、(2)で示されるエナミン化合物の少なくとも一つであることを特徴とする電子写真感光体。

【化1】



(一般式(1)、(2)において、R₁、R₂、R₄、R₅はそれぞれ置換基を有していてもよいアルキル基、アリール基、複素環を示し、R₃、R₆は水素原子、ハロゲン原子、置換基を有していてもよいアルキル基、アルコキシ基を示す。n、mは0～2の整数を示す。A_{r1}は置換基を有していてもよいアルキル基、アラルキル基、アリール基、複素環を示す。A_{r2}、A_{r3}、A_{r4}、A_{r5}はそれぞれ水素原子、置換基を有していてもよいアリール基、複素環を示す。また、R₇は窒素原子と共に環を形成するのに必要な原子群を表す。)

【請求項2】請求項1におけるフタロシアニン類が無金属フタロシアニン、チタニルオキシフタロシアニン、銅フタロシアニン、クロロアルミニウムフタロシアニン、クロロインジウムフタロシアニン、バナジルオキシフタロシアニン、クロロガリウムフタロシアニン、ヒドロキシガリウムフタロシアニン、ジフェノキシゲルマニウムフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項3】請求項2におけるフタロシアニン類が無金属フタロシアニンであり、該無金属フタロシアニンのCuK α 1.541オングストロームのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、7.6°、9.2°、16.8°、17.4°、20.4°、20.9°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン(τ型無金属フタロシアニン)、7.5°、9.1°、16.8°、17.3°、20.3°、20.8°、21.4°、27.4°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン(τ'-無金属フタロシアニン)、7.6°、9.2°、16.8°、17.4°、28.5°あるいは7.6°、9.2°、16.8°、17.4°、21.5°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシ

アニン(η型無金属フタロシアニン)、7.5°、9.1°、16.8°、17.3°、20.3°、20.8°、21.4°、27.4°あるいは7.5°、9.1°、16.8°、17.3°、20.3°、20.8°、21.4°、22.1°、27.4°、28.5°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン(η'型無金属フタロシアニン)、7.7°、9.3°、16.9°、22.4°、28.8°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6.7°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、15.2°を中心にして13.5°にショルダーを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、26.8°を中心にして24.8°にショルダーを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6.7°、8.7°、15.1°、17.7°、23.8°、26.1°、27.4°、30.0°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6.7°、7.2°、13.4°、14.5°、15.2°、16.0°、20.2°、21.7°、24.0°、24.8°、24.8°、26.6°、27.3°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6.6°、13.4°、14.5°、20.2°、24.8°、26.6°、27.2°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6.7°、7.3°、13.5°、14.9°、15.9°、16.7°、24.7°、26.1°に主要なピークを示すX線スペクトルを有する無金属フタロシアニン、または7.4°、9.0°、16.5°、17.2°、22.1°、23.8°、27.0°、28.4°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有するフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項4】請求項2におけるフタロシアニン類がチタニルオキシフタロシアニン類であり、該チタニルオキシフタロシアニンのCuK α 1.541オングストロームのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、7.5°、12.3°、16.3°、25.3°、28.7°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(α型チタニルオキシフタロシアニン)、9.3°、10.6°、13.2°、15.1°、15.7°、16.1°、20.8°、23.3°、26.3°、27.1°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(β型チタニルオキシフタロシアニン)、7.0°、15.6°、23.4°、25.5°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(C型チタニルオキシフタロシアニン)、6.9°、15.5°、23.4°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシ

3

アニン (m型チタニルオキシフタロシアニン)、9. 5°、9. 7°、11. 7°、15. 0°、23. 5°、24. 1°、27. 3° (Y型チタニルオキシフタロシアニン) に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、17. 7°、24. 0°、27. 2°、28. 6° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン (α型チタニルオキシフタロシアニン)、9. 0°、14. 2°、23. 9°、27. 1° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン (I型チタニルオキシフタロシアニン)、7. 4°、10. 1°、12. 4°、24. 1°、25. 2°、28. 5° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン (ω型チタニルオキシフタロシアニン)、7. 4°、11. 0°、17. 9°、20. 1°、26. 5°、29. 0° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン (E型チタニルオキシフタロシアニン)、7. 5°、22. 4°、24. 4°、25. 4°、26. 2°、27. 2°、28. 6° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 2°、13. 1°、20. 7°、26. 2°、27. 1° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、22. 9°、27. 4° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 6°、10. 5°、12. 5°、15. 6°、16. 4°、17. 7°、26. 3°、28. 9°、30. 5°、32. 0° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、26. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、15. 2°、26. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、13. 1°、20. 6°、26. 1°、27. 0° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 7°、7. 4°、10. 2°、12. 6°、15. 2°、16. 0°、17. 1°、18. 2°、22. 4°、23. 2°、24. 2°、25. 2°、28. 5° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、27. 3° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、27. 3° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 4°、11. 0°、17. 9°、20. 1°、26. 4°、29. 0° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、9. 7°、15. 4° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9.

4

2°、11. 6°、13. 0°、24. 1°、26. 2°、27. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 1°、12. 2°、16. 3°、26. 9° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 4°、9. 2°、10. 4°、11. 6°、13. 0°、14. 3°、15. 0°、15. 5°、23. 4°、24. 1°、26. 2°、27. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 5°、24. 1°、27. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 2°、14. 2°、24. 0°、27. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、4. 8°、9. 6°、26. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 5°、14. 5°、23. 8° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 0°、9. 1°、14. 1°、26. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、14. 9°、24. 8°、26. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 5°、27. 3° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、21. 6°、28. 0° に主要のX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 6°、27. 2° に主要のX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、19. 4°、21. 5°、23. 8° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、10. 5°、12. 6°、15. 0°、26. 6° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、8. 5°、13. 6°、17. 1°、18. 0°、23. 9°、27. 4° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、8. 9°、11. 4°、27. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 5°、22. 5°、28. 6° に主要のピークを有するX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、26. 1°、27. 1° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、8. 4° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 6°、10. 3°、12. 7°、16. 3°、22. 7°、24. 3°、25. 5°、28. 6° に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、7. 4°、15. 0°、24. 7°、26. 2°、27. 2° に主要のピークを示すX線回折スペクトル

ルを有するチタニルオキシフタロシアニン、または明瞭なピークを有していないアモルファス型であるチタニルオキシフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項5】 請求項2におけるフタロシアニン類が銅フタロシアニン類であり、該銅フタロシアニンのCu K α 1. 541 オング'ストローのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、7. 0°、9. 2°、12. 5°、16. 8°、18. 6°、21. 3°、23. 8°、26. 2°、28. 0°、30. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシアニン(β型銅フタロシアニン)、7. 6°、9. 1°、14. 2°、17. 4°、20. 4°、21. 2°、23. 0°、26. 5°、27. 2°、29. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシアニン(ε型銅フタロシアニン)、7. 0°、9. 8°、15. 8°、24. 9°、26. 7°、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシアニン(α型銅フタロシアニン)、7. 0°、7. 7°、9. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項6】 請求項2におけるフタロシアニン類がクロロアルミニウムフタロシアニン類であり、該クロロアルミニウムフタロシアニンのCu K α 1. 541 オング'ストローのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、7. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニン、6. 7°、11. 2°、16. 7°、25. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニン、25. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニンまたは、6. 5°、11. 1°、13. 7°、17. 0°、22. 0°、23. 0°、24. 1°、25. 7°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項7】 請求項2におけるフタロシアニン類がクロロインジウムフタロシアニンであり、該クロロインジウムフタロシアニンのCu K α 1. 541 オング'ストローのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、7. 4°、16. 7°、27. 8°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロインジウムフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項8】 請求項2におけるフタロシアニン類がバナジルオキシフタロシアニンであり、該バナジルオキシフタロシアニンのCu K α 1. 541 オング'ストローのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、9. 3°、10. 7°、13. 1°、15. 1°、15. 7°、16. 1°、20. 7°、23. 3°、26. 2°、2

7. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、7. 5°、24. 2°、27. 7°、28. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、14. 3°、18. 0°、24. 1°、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、7. 4°、10. 3°、12. 6°、16. 3°、17. 8°、18. 5°、22. 4°、24. 2°、25. 4°、27. 2°、28. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、または明瞭なピークを有していないアモルファス型であるバナジルオキシフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項9】 請求項2におけるフタロシアニン類がクロロガリウムフタロシアニン類であり、該クロロガリウムフタロシアニンのCu K α 1. 541 オング'ストローのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、7. 4°、16. 6°、25. 5°、28. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニン、11. 0°、13. 5°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニン、6. 8°、17. 3°、23. 6°、26. 9°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニン、または8. 7~9. 2°、17. 6°、27. 4°、28. 8°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【請求項10】 請求項2におけるフタロシアニン類がヒドロキシガリウムフタロシアニンであり、該ヒドロキシガリウムフタロシアニンのCu K α 1. 541 オング'ストローのX線に対するプラグ角($2\theta \pm 0.2^\circ$)が、7. 5°、9. 9°、12. 5°、16. 3°、18. 6°、25. 1°、28. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、7. 7°、16. 5°、25. 1°、26. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、7. 9°、16. 5°、24. 4°、27. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、7. 0°、7. 5°、10. 5°、11. 7°、12. 7°、17. 3°、18. 1°、24. 5°、26. 2°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、6. 8°、12. 8°、15. 8°、26. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニンまたは、7. 4°、9. 9°、25. 0°、26. 2°、28. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフ

タロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。
 【請求項11】請求項2におけるフタロシアニン類がジフェノキシゲルマニウムフタロシアニンであり、該ジフェノキシゲルマニウムフタロシアニンのCuK α 1.541オング'ストロームのX線に対するプラグ角(2θ±0.2°)が、9.0°、11.2°、17.1°、18.1°、20.9°、22.7°、25.8°、29.3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するジフェノキシゲルマニウムフタロシアニンであることを特徴とする電子写真感光体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は導電性支持体上にフタロシアニン類を電荷発生物質として、エナミン化合物を電荷輸送物質として用いた電子写真感光体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、電子写真方式の利用は複写機の分野に限らず印刷版材、スライドフィルム、マイクロフィルム等の従来では写真技術が使われていた分野へ広がり、またレーザーやLED、CRTを光源とする高速プリンターへの応用も検討されている。また最近では光導電性材料の電子写真感光体以外の用途、例えば静电記録素子、センサー材料、EL素子等への応用も検討され始めた。従って光導電性材料及びそれを用いた電子写真感光体に対する要求も高度で幅広いものになりつつある。これまで電子写真方式の感光体としては無機系の光導電性物質、例えばセレン、硫化カドミウム、酸化亜鉛、シリコンなどが知られており、広く研究され、かつ実用化されている。これらの無機物質は多くの長所を持っていると同時に、種々の欠点をも有している。例えばセレンには製造条件が難しく、熱や機械的衝撃で結晶化しやすいという欠点があり、硫化カドミウムや酸化亜鉛は耐湿性、耐久性に難がある。シリコンについては帶電性の不足や製造上の困難さが指摘されている。更に、セレンや硫化カドミウムには毒性の問題もある。

【0003】これに対し、有機系の光導電性物質は成膜性がよく、可搬性も優れていて、軽量であり、透明性もよく、適当な増感方法により広範囲の波長域に対する感光体の設計が容易であるなどの利点を有していることから、次第にその実用化が注目を浴びている。

【0004】ところで、電子写真技術に於て使用される感光体は、一般的に基本的な性質として次のような事が要求される。即ち、(1)暗所におけるコロナ放電に対して帯電性が高いこと、(2)得られた帯電電荷の暗所での漏洩(暗減衰)が少ないとこと、(3)光の照射によって帯電電荷の散逸(光減衰)が速やかであること、(4)光照射後の残留電荷が少ないとことなどである。

【0005】しかしながら、今まで有機系光導電性物質としてポリビニルカルバゾールを始めとする光導電性

ポリマーに関して多くの研究がなされてきたが、これらは必ずしも皮膜性、可搬性、接着性が十分でなく、又上述の感光体としての基本的な性質を十分に具備しているとはい難い。

【0006】一方、有機系の低分子光導電性化合物については、感光体形成に用いる結合剤などを選択することにより、皮膜性や接着性、可搬性など機械的強度に優れた感光体を得ることができるもの、高感度の特性を保持し得るのに適した化合物を見出すことは困難である。

【0007】このような点を改良するために電荷発生機能と電荷輸送機能とを異なる物質に分担させ、より高感度の特性を有する有機感光体が開発されている。機能分離型と称されているこのような感光体の特徴はそれぞれの機能に適した材料を広い範囲から選択できることであり、任意の性能を有する感光体を容易に作製し得ることから多くの研究が進められてきた。

【0008】このうち、電荷発生機能を担当する物質としては、フタロシアニン顔料、スクエアリウム色素、アゾ顔料、ペリレン顔料等の多種の物質が検討され、中でもアゾ顔料は多様な分子構造が可能であり、また、高い電荷発生効率が期待できることから広く研究され、実用化も進んでいる。しかしながら、このアゾ顔料においては、分子構造と電荷発生効率の関係はいまだに明らかになっていない。膨大な合成研究を積み重ねて、最適の構造を探索しているのが実情であるが、先に掲げた感光体として求められている基本的な性質や高い耐久性などの要求を十分に満足するものは、未だ得られていない。

【0009】また、近年従来の白色光のかわりにレーザー光を光源として、高速化、高画質化、ノンインパクト化を長所としたレーザービームプリンター等が、情報処理システムの進歩と相まって広く普及するに至り、その要求に耐えうる材料の開発が要望されている。特にレーザー光の中でも近年コンパクトディスク、光ディスク等への応用が増大し技術進歩が著しい半導体レーザーはコンパクトでかつ信頼性の高い光源材料としてプリンター分野でも積極的に応用されたきた。この場合該光源の波長は780nm前後であることから、780nm前後の長波長光に対して高感度な特性を有する感光体の開発が強く望まれている。その中で、特に近赤外領域に光吸収を有するフタロシアニンを使用した感光体の開発が盛んに行われている。しかし、未だ十分満足するものは得られていない。

【0010】一方、電荷輸送機能を担当する物質には正孔輸送物質と電子輸送物質がある。正孔輸送物質としてはヒドラゾン化合物やスチルベン化合物など、電子輸送性物質としては2,4,7-トリニトロ-9-フルオレノン、ジフェノキノン誘導体など多種の物質が検討され、実用化も進んでいるが、こちらも膨大な合成研究を積み重ねて最適の構造を探索しているのが実情である。

事実、これまでに多くの改良がなされてきたが、先に掲げた感光体として求められている基本的な性質や高い耐久性などの要求を十分に満足するものは、未だ得られていない。

【0011】以上述べたように電子写真感光体の作製には種々の改良が成されてきたが、先に掲げた感光体として要求される基本的な性質や高い耐久性などの要求を十分に満足するものは未だ得られていないのが現状である。

【0012】

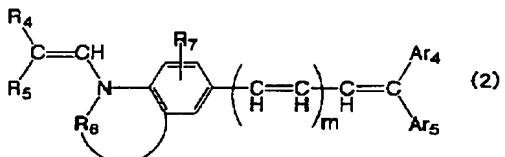
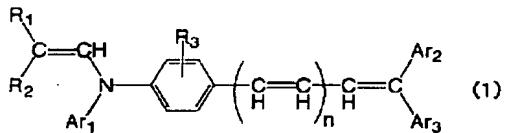
【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、高密度かつ繰り返し使用しても安定な性能を発揮できる最適な電子写真感光体を提供することである。

【0013】

【課題を解決するための手段】本発明者らは上記目的を達成すべく研究を行った結果本発明に至った。すなわち、本発明は導電性支持体上に電荷発生物質と電荷輸送物質を含む感光層を有する電子写真感光体において、電荷発生物質がフタロシアニン類、電荷輸送物質が下記一般式(1)、(2)で示されるエナミン化合物の少なくとも一つであることを特徴とするものである。

【0014】

【化2】



【0015】一般式(1)、(2)において、R₁、R₂、R₄、R₅はそれぞれ置換基を有していてよいアルキル基、アリール基、複素環を示し、R₃、R₇は水素原子、ハロゲン原子、置換基を有していてよいアルキル基、アルコキシ基を示す。n、mは0～2の整数を示す。A_{r1}は置換基を有していてよいアルキル基、アラルキル基、アリール基、複素環を示す。A_{r2}、A_{r3}、A_{r4}、A_{r5}はそれぞれ水素原子、置換基を有していてよいアリール基、複素環を示す。また、R₆は窒素原子と共に環を形成するのに必要な原子群を表す。

【0016】R₁、R₂、R₄、R₅の具体例としては、メチル基、エチル基等のアルキル基、フェニル基、ナフチル基等のアリール基、フリル基、チエニル基等の複素環を挙げることができる。また、R₁、R₂、R₄、R₅は置換基を有していてよいアルキル基、メトキシ基、エトキシ基等のアルコキシ基、フッ素原子、塩素原子等のハロゲン原子を挙げることができる。

できる。

【0017】また、A_{r1}の具体例としては、メチル基、エチル基等のアルキル基、ベンジル基、α-ナフチルメチル基等のアラルキル基、フェニル基、ナフチル基等のアリール基、フリル基、チエニル基等の複素環を挙げができる。また、A_{r1}は置換基を有していてもよく、その具体例としては上述のアルキル基、メトキシ基、エトキシ基等のアルコキシ基、フッ素原子、塩素原子等のハロゲン原子を挙げができる。

10 【0018】また、A_{r2}、A_{r3}、A_{r4}、A_{r5}の具体例としては、水素原子、フェニル基、ナフチル基等のアリール基、フリル基、チエニル基等の複素環を挙げができる。また、A_{r2}、A_{r3}、A_{r4}、A_{r5}は置換基を有していてもよく、その具体例としては、メチル基、エチル基等のアルキル基、メトキシ基、エトキシ基等のアルコキシ基、フッ素原子、塩素原子等のハロゲン原子、上述のアリール基を挙げができる。

【0019】また、R₆、R₇の具体例としては、メチル基、エチル基等のアルキル基、メトキシ基、エトキシ基等のアルコキシ基、フッ素原子、塩素原子等のハロゲン原子を挙げができる。また、R₆、R₇は置換基を有していてもよく、上述のアルキル基、上述のハロゲン原子を挙げができる。

【0020】また、R₆及び窒素原子等から形成される環の具体例としては、カルバゾール環、フェノキサジン環、フェノチアジン環、テトラヒドロキノリン環等を挙げができる。また、R₆及び窒素原子等から形成される環は置換基を有していてもよく、その具体例としては、メチル基、エチル基等のアルキル基、メトキシ基、エトキシ基等のアルコキシ基、フッ素、塩素等のハロゲン原子を挙げができる。

30 【0021】 【発明の実施の形態】本発明にかかる一般式(1)、(2)で示される電荷輸送物質の具体例としては、例えば次のA-01～47に示す構造式を有するものが挙げられるが、これらに限定されるものではない。

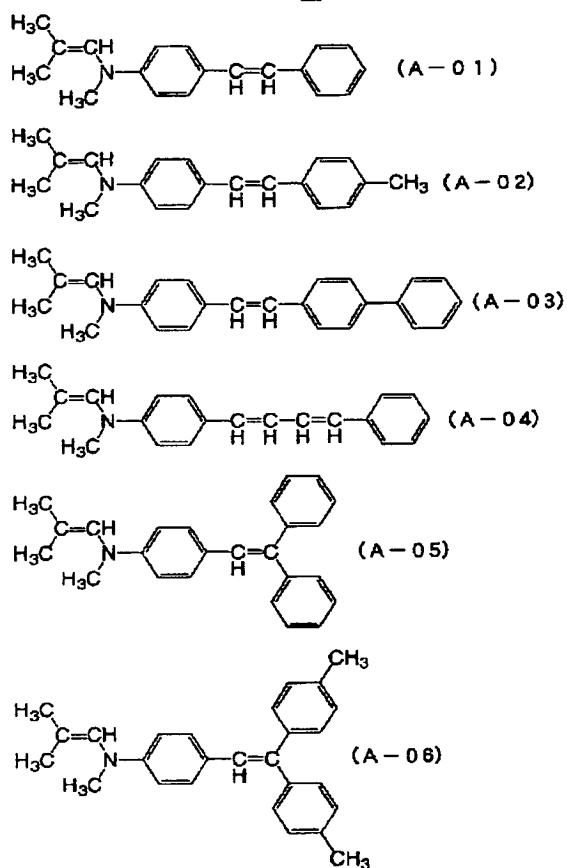
【0022】

【化3】

(7)

特開平10-69107

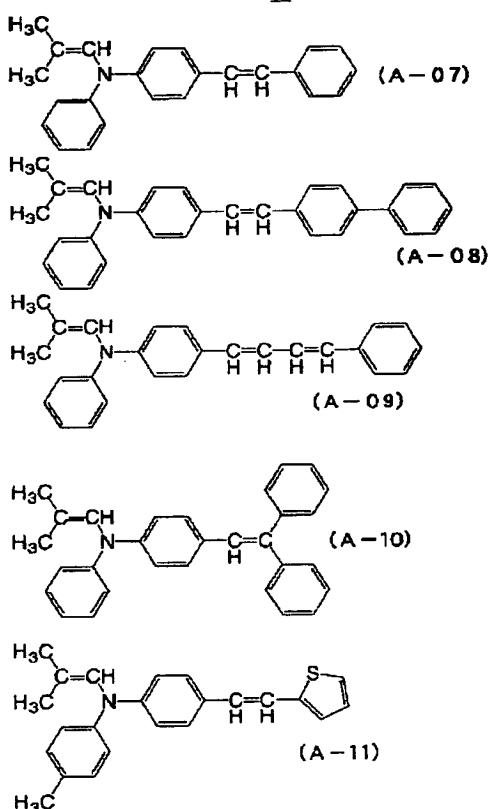
11



[0023]
[化4]

10

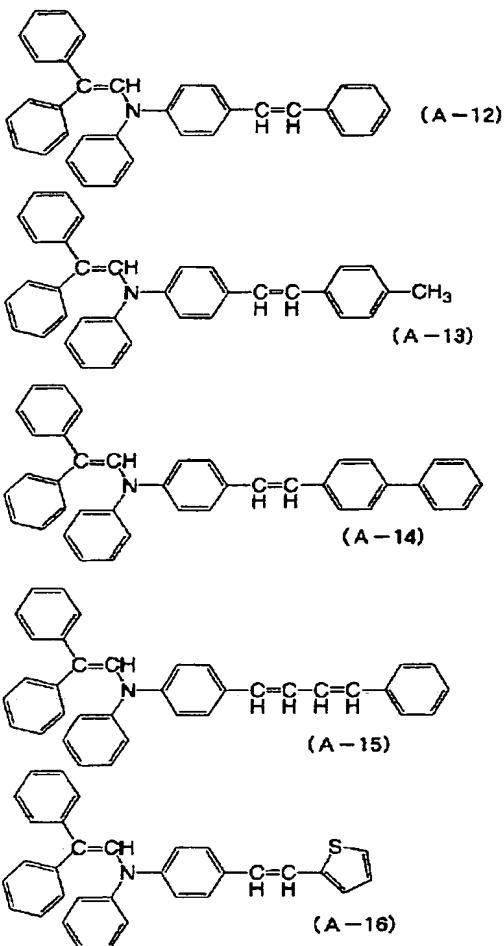
12



[0024]
[化5]

(8)

13



[0025]

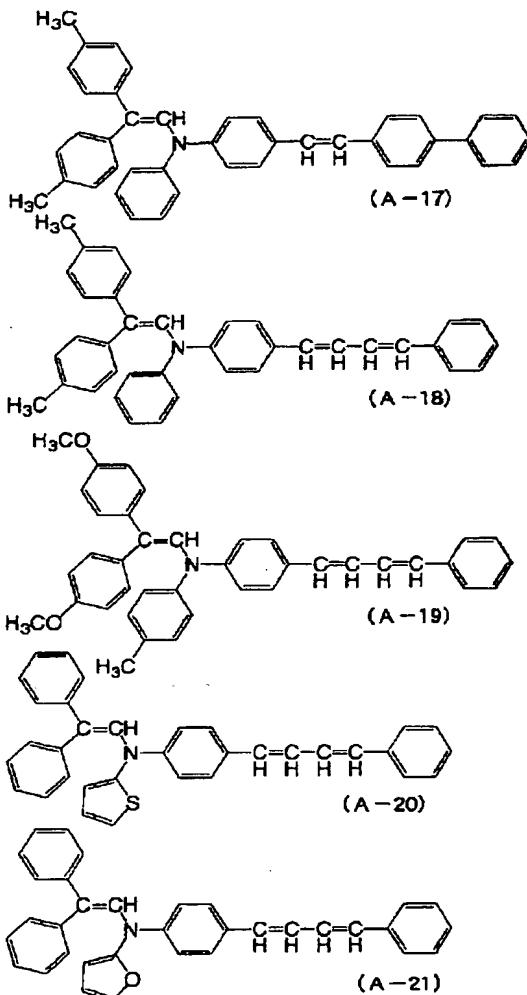
【化6】

10

20

30

14

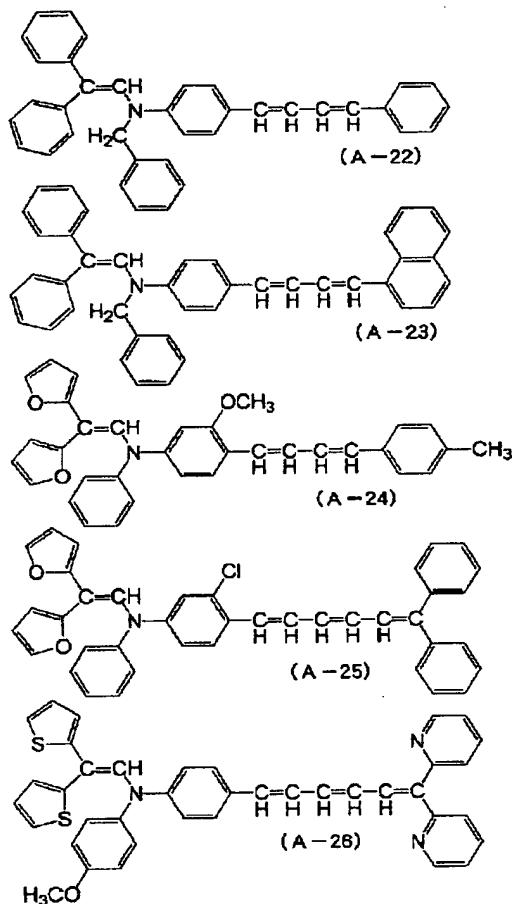


[0026]

【化7】

(9)

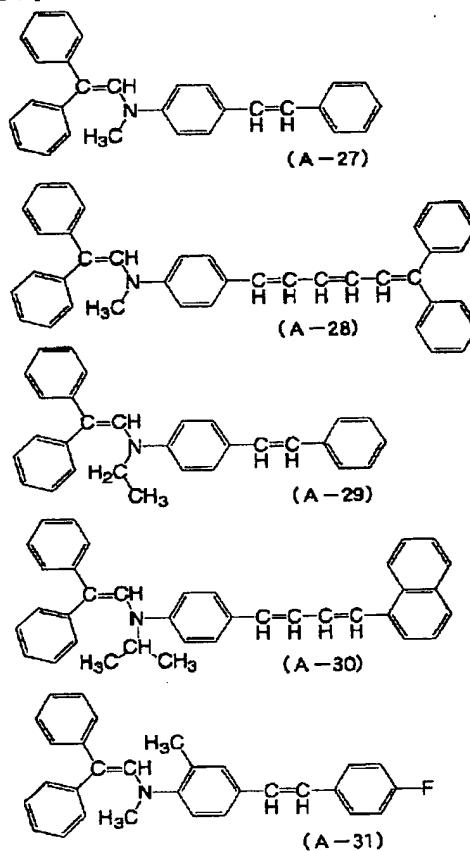
15



10

【化8】

16



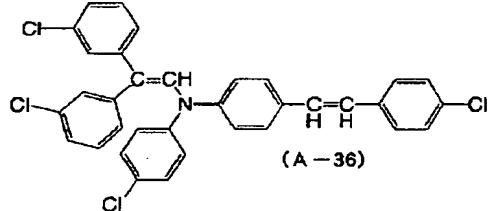
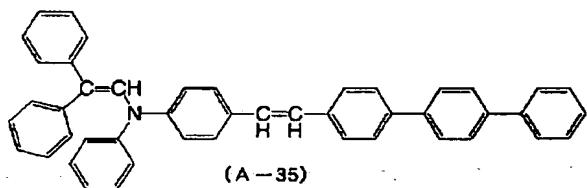
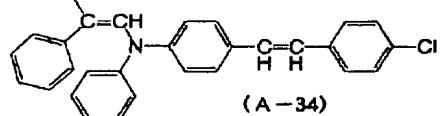
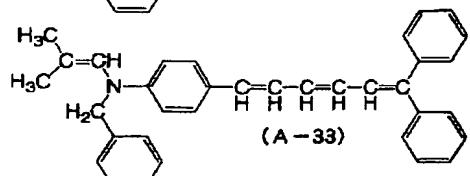
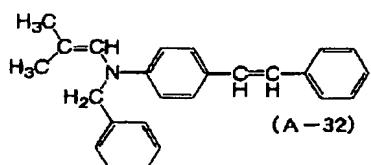
[0028]

【化9】

[0027]

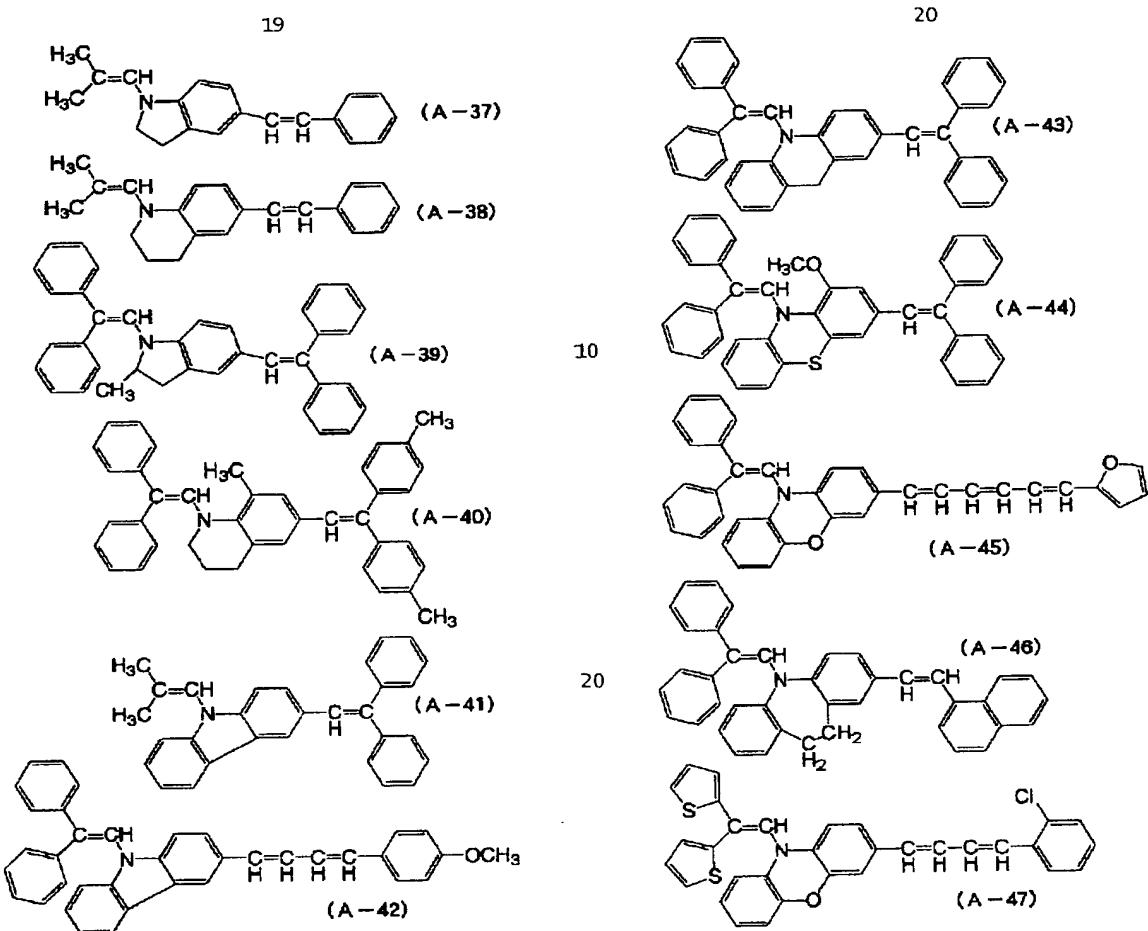
(10)

17



【0029】

【化10】



【0030】

【化11】

30 本発明において使用するフタロシアニン類としては、それ自体公知のフタロシアニン及びその誘導体のいずれでも使用でき、具体的には、無金属フタロシアニン類、チタニルオキシフタロシアニン類、銅フタロシアニン類、アルミニウムフタロシアニン類、ジフェノキシゲルマニウムフタロシアニン類、ゲルマニウムフタロシアニン類、ガリウムフタロシアニン類、クロロガリウムフタロシアニン類、プロモガリウムフタロシアニン類、クロロインジウムフタロシアニン類、プロモインジウムフタロシアニン類、ヨードインジウムフタロシアニン類、マグネシウムフタロシアニン類、クロロアルミニウムフタロシアニン類、プロモアルミニウムフタロシアニン類、スズフタロシアニン類、ジクロロスズフタロシアニン類、バナジルオキシフタロシアニン類、亜鉛フタロシアニン類、コバルトフタロシアニン類、ニッケルフタロシアニン類、ヒドロキシガリウムフタロシアニン類、ジヒドロキシガリウムフタロシアニン類、バリウムフタロシアニン類、ベリリウムフタロシアニン類、カドミウムフタロシアニン類、クロロコバルトフタロシアニン類、ジクロロチタニルフタロシアニン類、鉄フタロシアニン類、シリコンフタロシアニン類、鉛フタロシアニン類、白金フタロシアニン類、無金属ナフタロシアニン

類、アルミニウムナフタロシアニン類、チタニルオキシナフタロシアニン類、ルテニウムフタロシアニン、バラジウムフタロシアニン等が挙げられる。特にその中でも無金属フタロシアニン、チタニルオキシフタロシアニン、銅フタロシアニン、クロロアルミニウムフタロシアニン、クロロインジウムフタロシアニン、バナジルオキシフタロシアニン、ジフェノキシゲルマニウムフタロシアニン、クロロガリウムフタロシアニン、ヒドロキシガリウムフタロシアニンが本発明では好ましく用いられる。

【0032】また、フタロシアニン類は結晶多型の化合物として知られ、各種結晶型のフタロシアニン類が見出されている。これらの結晶型や製造方法に関する記述として、無金属フタロシアニンは、特公昭49-4338号公報、特開昭58-182639号公報、特開昭60-19151号公報、特開昭62-47054号公報、特開昭62-143058号公報、特開昭63-286857号公報、特開平1-138563号公報、特開平1-230581号公報、特開平2-233769号公報、さらにはJ. Phys. Chem. 72, 3230 (1968)に、チタニルオキシフタロシアニンは、特開昭61-217050号公報、特開昭62-67094号公報、特開昭62-229253号公報、特開昭63-364号公報、特開昭63-365号公報、特開昭63-366号公報、特開昭63-37163号公報、特開昭63-80263号公報、特開昭63-116158号公報、特開昭63-198067号公報、特開昭63-218768号公報、特開昭64-17066号公報、特開平1-123868号公報、特開平1-138562号公報、特開平1-153757号公報、特開平1-172459号公報、特開平1-172462号公報、特開平1-189200号公報、特開平1-204969号公報、特開平1-207755号公報、特開平1-299874号公報、特開平2-8256号公報、特開平2-99969号公報、特開平2-131243号公報、特開平2-165156号公報、特開平2-165157号公報、特開平2-215866号公報、特開平2-267563号公報、特開平2-297560号公報、特開平3-35064号公報、特開平3-54264号公報、特開平3-84068号公報、特開平3-94264号公報、特開平3-100658号公報、特開平100659号公報、特開平3-123359号公報、特開平3-199268号公報、特開平3-200790号公報、特開平3-269064号公報、特開平4-145166号公報、特開平4-145167号公報、特開平4-153273号公報、特開平4-159373号公報、特開平4-179964号公報、特開平5-202309号公報、特開平5-279592号公報、特開平5-289380号公報、特開平6-336554号公報、特開平7-82503号公

報、特開平7-82505号公報、さらには特開平8-110649号公報に、銅フタロシアニンは、特公昭52-1667号公報、特開昭51-108847号公報、特開昭55-60958号公報、さらには α 型、 π 型、 χ 型、 ρ 型等が知られている。クロロアルミニウムフタロシアニンは、特開昭58-158649号公報、特開昭62-133462号公報、特開昭62-163060号公報、特開昭63-43155号公報、さらには特開昭64-70762号公報に、クロロインジウム

10 フタロシアニンは特開昭59-44054号公報、特開昭60-59355号公報、特開昭61-45249号公報、さらには特開平7-13375号公報に、バナジルオキシフタロシアニンは、特開昭63-18361号公報、特開平1-204968号公報、特開平268763号公報、特開平3-269063号公報、さらには特開平7-247442号公報に、ジフェノキシフタロシアニンは、特開平4-360150号公報に、クロロガリウムフタロシアニンは、特開平5-194523号公報、さらには特開平7-102183号公報に、ヒドロキシガリウムフタロシアニンは、特開平5-263007号公報、さらには特開平7-53892号公報に記載されているものを挙げることができる。

【0033】本発明においては、中でもCuK α 1.541オングストロームのX線に対し次のプラッグ角(2 θ \pm 0.2°)を有するものが特に好ましく用いられる。

無金属フタロシアニン

7.6°、9.2°、16.8°、17.4°、20.4°、20.9°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン(τ 型無金属フタロシアニン)、7.5°、9.1°、16.8°、17.3°、20.3°、20.8°、21.4°、27.4°に主要なピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン(τ' -無金属フタロシアニン)、7.6°、9.2°、16.8°、17.4°、28.5°あるいは7.6°、9.2°、16.8°、17.4°、21.5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン(η 型無金属フタロシアニン)、7.5°、9.1°、16.8°、17.3°、20.3°、20.8°、21.4°、27.4°あるいは7.5°、9.1°、16.8°、17.3°、20.3°、20.8°、21.4°、22.1°、27.4°、28.5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン(η' 型無金属フタロシアニン)、7.7°、9.3°、16.9°、22.4°、28.8°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6.7°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、15.2°を中心に13.5°にショルダーを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、26.8°を中心に24.8°にショ

ルダーを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6. 7°、8. 7°、15. 1°、17. 7°、23. 8°、26. 1°、27. 4°、30. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6. 7°、7. 2°、13. 4°、14. 5°、15. 2°、16. 0°、20. 2°、21. 7°、24. 0°、24. 8°、24. 8°、26. 6°、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6. 6°、13. 4°、14. 5°、20. 2°、24. 8°、26. 6°、27. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン、6. 7°、7. 3°、13. 5°、14. 9°、15. 9°、16. 7°、24. 7°、26. 1°に主要のピークを示すX線スペクトルを有する無金属フタロシアニン、または7. 4°、9. 0°、16. 5°、17. 2°、22. 1°、23. 8°、27. 0°、28. 4°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する無金属フタロシアニン。

[0034] チタニルオキシフタロシアニン
7. 5°、12. 3°、16. 3°、25. 3°、28. 7°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(α型チタニルオキシフタロシアニン)、9. 3°、10. 6°、13. 2°、15. 1°、15. 7°、16. 1°、20. 8°、23. 3°、26. 3°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(β型チタニルオキシフタロシアニン)、7. 0°、15. 6°、23. 4°、25. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(C型チタニルオキシフタロシアニン)、6. 9°、15. 5°、23. 4°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(γ型チタニルオキシフタロシアニン)、9. 5°、9. 7°、11. 7°、15. 0°、23. 5°、24. 1°、27. 3°(Y型チタニルオキシフタロシアニン)に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、17. 7°、24. 0°、27. 2°、28. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(α型チタニルオキシフタロシアニン)、9. 0°、14. 2°、23. 9°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(I型チタニルオキシフタロシアニン)、7. 4°、10. 1°、12. 4°、24. 1°、25. 2°、28. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン(ω型チタニルオキシフタロシアニン)、7. 4°、11. 0°、17. 9°、20. 1°、26. 5°、29. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクト

ルを有するチタニルオキシフタロシアニン(E型チタニルオキシフタロシアニン)、7. 5°、22. 4°、24. 4°、25. 4°、26. 2°、27. 2°、28. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 2°、13. 1°、20. 7°、26. 2°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、22. 9°、27. 4°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 6°、10. 5°、12. 5°、15. 6°、16. 4°、17. 7°、26. 3°、28. 9°、30. 5°、32. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、26. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、15. 2°、26. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、13. 1°、20. 6°、26. 1°、27. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 7°、7. 4°、10. 2°、12. 6°、15. 2°、16. 0°、17. 1°、18. 2°、22. 4°、23. 2°、24. 2°、25. 2°、28. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 4°、11. 0°、17. 9°、20. 1°、26. 4°、29. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、9. 7°、15. 4°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 2°、11. 6°、13. 0°、24. 1°、26. 2°、27. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 1°、12. 2°、16. 3°、26. 9°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 4°、9. 2°、10. 4°、11. 6°、13. 0°、14. 3°、15. 0°、15. 5°、23. 4°、24. 1°、26. 2°、27. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 5°、24. 1°、27. 1°、27. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 2°、14. 2°、24. 0°、27. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、4. 8°、9. 6°、26. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 5°、14. 5°、23. 8°に主要の

ピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 0°、9. 1°、14. 1°、26. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、14. 9°、24. 8°、26. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 5°、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、21. 6°、28. 0°に主要のX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、9. 6°、27. 2°に主要のX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 3°、19. 4°、21. 5°、23. 8°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、10. 5°、12. 6°、15. 0°、26. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、8. 5°、13. 6°、17. 1°、18. 0°、23. 9°、27. 4°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、8. 9°、11. 4°、27. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 5°、22. 5°、28. 6°に主要のピークを有するX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、26. 1°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、8. 4°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、7. 6°、10. 3°、12. 7°、16. 3°、22. 7°、24. 3°、25. 5°、28. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、6. 8°、7. 4°、15. 0°、24. 7°、26. 2°、27. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するチタニルオキシフタロシアニン、または明瞭なピークを有していないアモルファス型であるチタニルオキシフタロシアニン。

【0035】銅フタロシアニン

7. 0°、9. 2°、12. 5°、16. 8°、18. 6°、21. 3°、23. 8°、26. 2°、28. 0°、30. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシアニン(β型銅フタロシアニン)、7. 6°、9. 1°、14. 2°、17. 4°、20. 4°、21. 2°、23. 0°、26. 5°、27. 2°、29. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシアニン(ε型銅フタロシアニン)、7. 0°、9. 8°、15. 8°、24. 9°、26. 7°、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシアニン(α型銅フタロシアニン)、7. 0°、7. 7°、9. 2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有する銅フタロシア

ニン。

【0036】クロロアルミニウムフタロシアニン
7. 0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニン、6. 7°、11. 2°、16. 7°、25. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニン、25. 5°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニンまたは、6. 5°、11. 1°、13. 7°、17. 0°、22. 0°、23. 0°、24. 1°、25. 7°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロアルミニウムフタロシアニン。

【0037】クロロインジウムフタロシアニン
7. 4°、16. 7°、27. 8°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロインジウムフタロシアニン。

【0038】バナジルオキシフタロシアニン
9. 3°、10. 7°、13. 1°、15. 1°、15. 7°、16. 1°、20. 7°、23. 3°、26. 2°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、7. 5°、24. 2°、27. 7°、28. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、14. 3°、18. 0°、24. 1°、27. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、7. 4°、10. 3°、12. 6°、16. 3°、17. 8°、18. 5°、22. 4°、24. 2°、25. 4°、27. 2°、28. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するバナジルオキシフタロシアニン、または明瞭なピークを有していないアモルファス型であるバナジルオキシフタロシアニン。

【0039】クロロガリウムフタロシアニン
7. 4°、16. 6°、25. 5°、28. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニン、11. 0°、13. 5°、27. 1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニン、6. 8°、17. 3°、23. 6°、26. 9°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニン、または8. 7~9. 2°、17. 6°、27. 4°、28. 8°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するクロロガリウムフタロシアニン。

【0040】ヒドロキシガリウムフタロシアニン
7. 5°、9. 9°、12. 5°、16. 3°、18. 6°、25. 1°、28. 3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、7. 7°、16. 5°、25. 1°、26. 6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、7. 9°、16. 5°

°、24.4°、27.6°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、7.0°、7.5°、10.5°、11.7°、12.7°、17.3°、18.1°、24.5°、26.2°、27.1°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン、6.8°、12.8°、15.8°、26.0°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニンまたは、7.4°、9.9°、25.0°、26.2°、28.2°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するヒドロキシガリウムフタロシアニン。

【0041】ジフェノキシゲルマニウムフタロシアニン9.0°、11.2°、17.1°、18.1°、20.9°、22.7°、25.8°、29.3°に主要のピークを示すX線回折スペクトルを有するジフェノキシゲルマニウムフタロシアニン。

【0042】一般的にフタロシアニンの製造法としては、フタロジニトリルと金属塩化物、またはアルコキシ金属とを加熱溶融または有機溶媒存在下で加熱するフタロジニトリル法、無水フタル酸を尿素及び金属塩化物と加熱溶融または有機溶媒存在下で加熱するワライー法、シアノベンズアミドと金属塩とを高温で反応させる方法、あるいはシリチウムフタロシアニンと金属塩を反応させる方法等があるが、これらに限定されるものではない。また、反応に用いる有機溶媒としては、 α -クロロナフタレン、 β -クロロナフタレン、 α -メチルナフタレン、メトキシナフタレン、ジフェニルナフタレン、エチレングリコール、ジアルキルエーテル、キノリン、スルホラン、ジクロロベンゼン、N-メチル-2-ピロリドン、ジクロロトルエン等の反応不活性な高沸点の溶媒が望ましい。

【0043】上述の方法によって得たフタロシアニン化合物を、酸、アルカリ、アセトン、メタノール、エタノール、メチルエチルケトン、テトラヒドロフラン、ビリジン、キノリン、スルホラン、 α -クロロナフタレン、トルエン、キシレン、ジオキサン、クロロホルム、ジクロロエタン、N,N'-ジメチルホルムアミド、N-メチル-2-ピロリドン等により精製して電子写真用途に用い得る高純度のフタロシアニン化合物が得られる。精製法としては、洗浄法、再結晶法、ソックスレー等の抽出法、及び熱懸濁法、昇華法等がある。また、精製方法はこれらに限定されるものではなく、未反応物や反応副生成物を取り除く作業であればいずれでもよい。

【0044】次に本発明における合成例をさらに詳細に説明するが、本発明はこれらに何ら限定されるものではない。

【0045】合成例1 チタニルオキシフタロシアニン(β 型)の合成

1、3-ジイミノイソインドリン25.5g、チタン

テトラ-n-ブトキシド15.0gを1-クロロナフタレン180mlに溶かし、油浴上180°Cで加熱攪拌。5時間後、析出した結晶を濾取し、トルエン、アセトンで順次洗浄し、乾燥してチタニルオキシフタロシアニンの結晶を21.4g得た。この化合物のIRスペクトルを図1に、X線回折スペクトルを図2に示す。

【0046】合成例2 チタニルオキシフタロシアニン(アモルファス)の合成

合成例1で得たチタニルオキシフタロシアニン3.0gを約0°Cに冷却した濃硫酸150mlにゆっくりと加えて溶解させた。この溶液を冷却した氷水1.2lにゆっくりと注ぎ込み結晶を析出させた。結晶を濾取し、中性になるまで水で洗浄し、乾燥してアモルファスのチタニルフタロシアニンを2.6g得た。この化合物のIRスペクトルは図2と同様のピークを示し、X線回折スペクトルは図3に示す。これらより、この操作によって化合物を分解せることなく、結晶型のみを変換させていることが確認できた。

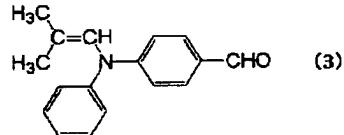
【0047】合成例3 チタニルオキシフタロシアニン(Y型)の合成

合成例2で得たアモルファスのチタニルフタロシアニン2.0g、水28.0g、クロロベンゼン6.0gを50°Cで加熱攪拌した。1時間後、室温まで冷却し、結晶を濾取し、メタノールで洗浄した。乾燥してY型チタニルフタロシアニン1.7gを得た。この化合物のX線回折スペクトルを図4に示す。

【0048】以下同様の手法で合成したフタロシアニン類、及びそのX線回折スペクトルを示す。m型チタニルオキシフタロシアニン(図5)、ジフェノキシゲルマニウムフタロシアニン(図6)。

【0049】

【化12】

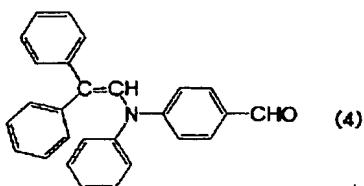


【0050】合成例4 例示化合物A-10の合成

ジエチルベンゾヒドリルフォスフォネート3.35g、上記に示すアルデヒド化合物(3)2.51gをN,N'-ジメチルホルムアミド(DMF)20mlに溶かし、室温で攪拌下、カリウムt-ブトキシド1.68gをゆっくりと加えた。1時間後、反応液を水300ml、酢酸エチル200mlに注ぎ込み、有機層を分離した。無水硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下、溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し、例示化合物A-10を2.3g得た。融点85.0~88.0°C。

【0051】

【化13】



【0052】合成例5 例示化合物A-14の合成

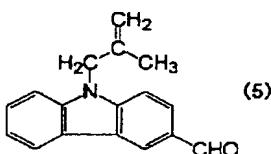
4-クロロメチルビフェニル3.04g、トリエチルフルオスマイト2.50gを140°Cで加熱攪拌した。7時間後、室温まで冷却し、上記に示すアルデヒド化合物(4)3.75g、DMF 70mlを加えた。室温で攪拌下、ナトリウムメチラート(28%、メタノール溶液)3.93gを滴下し、同温で1時間攪拌を続けた。次いで、反応液を400mlの氷水へ注ぎ込み、結晶を析出させた。結晶をグラスフィルターで濾取し、水、イソブロビルアルコールで洗浄した。得た粗結晶をメチルセロソルブで再結晶し、例示化合物A-14を得た。融点162.4~163.6°C。

【0053】合成例6 例示化合物A-15の合成

シンナミルプロミド2.57g、トリエチルフルオスマイト2.17gを120°Cで加熱攪拌した。5時間後、反応液を室温まで冷却し、減圧蒸留により、トリエチルシンナミルフルオスマイトを2.38g得た。上述によって得たトリエチルシンナミルフルオスマイト2.28g、上記に示すアルデヒド化合物(4)2.81gをDMF 35mlに溶かし、室温で攪拌下、ナトリウムメチラート2.18g(28%、メタノール溶液)を滴下した。1時間後、反応液を300mlの氷水に注ぎ込み、結晶を析出させた。結晶をグラスフィルターで濾取し、水、エタノールで洗浄した。得た粗結晶をメチルセロソルブで再結晶し、例示化合物A-15を2.95g得た。融点156.0~157.1°C。

【0054】

【化14】



【0055】合成例7 例示化合物A-41の合成

ジエチルベンズヒドリルフルオスマイト3.34g、上記に示すアルデヒド化合物(5)2.49gをDMF 15mlに溶かし、室温で攪拌下、カリウムt-ブトキシド2.24gをゆっくりと加えた。3時間後、反応液を水300ml、酢酸エチル200mlに注ぎ込み、有機層を分離した。無水硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下、溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し、例示化合物A-41を3.70g得た。オイル状。

【0056】感光体の形態としては種々のものが知られ

ているが、そのいずれにも用いることができる。例えば、導電性支持体上に電荷発生物質、電荷輸送物質、およびフィルム形成性接着剤樹脂からなる感光層を設けたものがある。また、導電性支持体上に、電荷発生物質と接着剤樹脂からなる電荷発生層と、電荷輸送物質と接着剤樹脂からなる電荷輸送層を設けた積層型の感光体も知られている。電荷発生層と電荷輸送層はどちらが上層となって構わない。また、必要に応じて導電性支持体と感光層の間に下引き層を、感光体表面にオーバーコート層を、積層型感光体の場合は電荷発生層と電荷輸送層との間に中間層を設けることもできる。本発明の化合物を用いて感光体を作製する支持体としては金属製ドラム、金属板、導電性加工を施した紙、プラスチックフィルムのシート状、ドラム状あるいはベルト状の支持体等が使用される。

【0057】それらの支持体上へ感光層を形成するために用いるフィルム形成性接着剤樹脂としては利用分野に応じて種々のものがあげられる。例えば複写用感光体の用途ではポリスチレン樹脂、ポリビニルアセタール樹脂、ポリスルホン樹脂、ポリカーボネート樹脂、酢ビ・クロトン酸共重合体樹脂、ポリエステル樹脂、ポリフェニレンオキサイド樹脂、ポリアリレート樹脂、アルキッド樹脂、アクリル樹脂、メタクリル樹脂、フェノキシ樹脂等が挙げられる。これらの中でも、ポリスチレン樹脂、ポリビニルアセタール樹脂、ポリカーボネート樹脂、ポリエステル樹脂、ポリアリレート樹脂等は感光体としての電位特性に優れている。又、これらの樹脂は、単独あるいは共重合体として1種又は2種以上を混合して用いることができる。これら接着剤樹脂の光導電性化合物に対して加える量は、20~1000重量%が好ましく、50~500重量%がより好ましい。

【0058】積層型感光体の場合、電荷発生層に含有されるこれらの樹脂は、電荷発生物質に対して10~500重量%が好ましく、50~150重量%がより好ましい。樹脂の比率が高くなりすぎると電荷発生効率が低下し、また樹脂の比率が低くなりすぎると成膜性に問題が生じる。また、電荷輸送層に含有されるこれらの樹脂は、電荷輸送物質に対して20~1000重量%が好ましく、50~500重量%がより好ましい。樹脂の比率が高すぎると感度が低下し、また、樹脂の比率が低くなりすぎると繰り返し特性の悪化や塗膜の欠損を招くおそれがある。

【0059】これらの樹脂の中には、引っ張り、曲げ、圧縮等の機械的強度に弱いものがある。この性質を改良するため、可塑性を与える物質を加えることができる。具体的には、フタル酸エステル(例えばDOP、DBP等)、リン酸エ斯特ル(例えばTCP、TOP等)、セバシン酸エ斯特ル、アジピン酸エ斯特ル、ニトリルゴム、塩素化炭化水素等が挙げられる。これらの物質は、必要以上に添加すると電子写真特性の悪影響を及

ぼすので、その割合は接着剤樹脂に対し20%以下が好ましい。

【0060】その他、感光体中への添加物として酸化防止剤やカール防止剤等、塗工性の改良のためレベリング剤等を必要に応じて添加することができる。

【0061】一般式(1)、(2)で示されるエナミン化合物は更に他の電荷輸送物質と組み合わせて用いることができる。電荷輸送物質には正孔輸送物質と電子輸送物質がある。前者の例としては、例えば特公昭34-5466号公報等に示されているオキサジアゾール類、特公昭45-555号公報等に示されているトリフェニルメタン類、特公昭52-4188号公報等に示されているピラゾリン類、特公昭55-42380号公報等に示されているヒドrazin類、特開昭56-123544号公報等に示されているオキサジアゾール類等をあげることができる。一方、電子輸送物質としては、例えばクロラニル、テトラシアノエチレン、テトラシアノキノジタン、2,4,7-トリニトロ-9-フルオレノン、2,4,5,7-テトラニトロ-9-フルオレノン、2,4,5,7-テトラニトロキサントン、2,4,8-トリニトロチオキサントン、1,3;7-トリニトロジベンゾチオフェン、1,3,7-トリニトロジベンゾチオフェン-5,5-ジオキシドなどがある。これらの電荷輸送物質は単独または2種以上組み合わせて用いることができる。

【0062】また、一般式(1)、(2)で示されるエナミン化合物と電荷移動錯体を形成し、更に増感効果を増大させる増感剤としてある種の電子吸引性化合物を添加することもできる。この電子吸引性化合物としては例えば、2,3-ジクロロ-1,4-ナフトキノン、1-ニトロアントラキノン、1-クロロ-5-ニトロアントラキノン、2-クロロアントラキノン、フェナントレンキノン等のキノン類、4-ニトロベンズアルデヒド等のアルデヒド類、9-ベンゾイルアントラセン、インダンジオン、3,5-ジニトロベンゾフェノン、3,3',5,5'-テトラニトロベンゾフェノン等のケトン類、無水フタル酸、4-クロロナフタル酸無水物等の酸無水物、テレフタラルマロノニトリル、9-アントリルメチリデンマロノニトリル、4-ニトロベンザルマロノニトリル、4-(p-ニトロベンゾイルオキシ)ベンザルマロノニトリル等のシアノ化合物、3-ベンザルフタリド、3-(α -シアノ-p-ニトロベンザル)フタリド、3-(α -シアノ-p-ニトロベンザル)-4,5,6,7-テトラクロロフタリド等のフタリド類等を挙げることができる。

【0063】フタロシアニン類及び一般式(1)、(2)で示されるエナミン化合物は、感光体の形態に応じて種々の添加物質と共に適当な溶剤中に溶解又は分散し、その塗布液を先に述べた導電性支持体上に塗布し、乾燥して感光体を製造することができる。

【0064】塗布溶剤としてはクロロホルム、ジクロロエタン、ジクロロメタン、トリクロロエタン、トリクロロエチレン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼン等のハロゲン化炭化水素、ベンゼン、トルエン、キシレン等の芳香族炭化水素、ジオキサン、テトラヒドロフラン、メチルセロソルブ、エチルセロソルブ、エチレングリコールジメチルエーテル等のエーテル系溶剤、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、メチルイソプロピルケトン、シクロヘキサン等のケトン系溶剤、酢酸エチル、磷酸メチル、メチルセロソルブアセテート等のエステル系溶剤、N,N-ジメチルホルムアミド、アセトニトリル、N-メチルビロリドン、ジメチルスルホキシド等の非プロトン性極性溶剤及びアルコール系溶剤等を挙げができる。これらの溶剤は単独または2種以上の混合溶剤として使用することができる。

【0065】

【実施例】次に本発明を実施例によりさらに詳細に説明するが、本発明はこれらに何ら限定されるものではない。

20 【0066】実施例1

τ 型無金属フタロシアニン1重量部及びポリエステル樹脂(東洋紡製バイロン220)1重量部をジオキサン100重量部と混合し、ペイントコンディショナー装置でガラスピースと共に3時間分散した。こうして得た分散液を、アブリケーターにてアルミ蒸着ポリエステル上に塗布して乾燥し、膜厚約0.2μの電荷発生層を形成した。次にエナミン化合物(例示化合物A-02)を、ポリアリレート樹脂(ユニチカ製U-ポリマー)と1:1の重量比で混合し、ジクロロエタンを溶媒として10%の溶液を作り、上記の電荷発生層の上にアブリケーターで塗布して膜厚約20μの電荷輸送層を形成した。

【0067】この様にして作製した積層型感光体について、静電記録試験装置(川口電気製SP-428)を用いて電子写真特性の評価を行なった。

測定条件:印加電圧-6kV、スタティックNo.3(ターンテーブルの回転スピードモード:10m/min)。その結果、帯電電位(V_o)が-800V、半減露光量(E_{1/2})が1.3ルックス・秒と高感度の値を示した。

40 【0068】更に同装置を用いて、帯電-除電(除電光:白色光で400ルックス×1秒照射)を1サイクルとする繰返し使用に対する特性評価を行った。5000回での繰返しによる帯電電位の変化を求めたところ、1回目の帯電電位(V_o) -800Vに対し、5000回目の帯電電位(V_o)は-790Vであり、繰返しによる電位の低下がなく安定した特性を示した。また、1回目の半減露光量(E_{1/2}) 1.3ルックス・秒に対して5000回目の半減露光量(E_{1/2})は1.3ルックス・秒と変化がなく優れた特性を示した。

50 【0069】実施例2~37

実施例1のτ型無金属フタロシアニン、例示化合物A-02の代わりに、それぞれ表2、表3に示すフタロシアニン類、エナミン化合物を用いる他は、実施例1と同様にして感光体を作製してその特性を評価した。結果を表*

*2、表3に示す。また、実施例1~74で用いている各フタロシアニンの結晶型を表1に示す。

【0070】

【表1】

	Cu K α 1・541 Å の X 線に対するブラック角 (2θ ± 0, 2°)
τ型無金属フタロシアニン	7.6'、9.2'、16.8'、17.4'、20.4'、20.9'
η型無金属フタロシアニン	7.5'、9.1'、16.8'、17.3'、20.3'、20.8'、21.4'、27.4'、あるいは 7.5'、9.1'、16.8'、17.3'、20.3'、20.8'、21.4'、22.1'、27.4'、28.5'
ε型銅フタロシアニン	7.6'、9.1'、14.2'、17.4'、20.4'、21.2'、23.0'、26.5'、27.2'、29.5'
ジフェノキシジカルボンフタロシアニン	9.0'、11.2'、17.1'、18.1'、20.9'、22.7'、25.8'、29.3'
Υ型チニカキシフタロシアニン	9.5'、9.7'、11.7'、15.0'、23.5'、24.1'、27.3'
Ⅲ型チニカキシフタロシアニン	6.9'、15.5'、23.4'
クロロアミドフタロシアニン	6.7'、11.2'、16.7'、25.6'
クロロイソツウムフタロシアニン	7.4'、16.7'、27.8'
パナジンフタロシアニン	7.5'、24.2'、27.2'、28.6'
クロロカリウムフタロシアニン	7.4'、16.6'、25.5'、28.3'
ヒトロキシカリウムフタロシアニン	7.5'、9.9'、12.5'、16.3'、18.6'、25.1'、28.3'

【0071】

【表2】

実施例	例示化合物		1回目		5000回目	
	フタロシアニン	エナミン化合物	V0(V)	E1/2*	V0(V)	E1/2*
2	τ型無金属フタロシアニン	A-10	-790	1.2	-770	1.2
3	"	A-41	-800	1.2	-790	1.2
4	η型無金属フタロシアニン	A-15	-805	1.3	-790	1.3
5	"	A-28	-790	1.2	-770	1.2
6	シ'フェノキシカムラニウムフタロシアニン	A-09	-795	1.2	-775	1.2
7	"	A-14	-780	1.1	-770	1.1
8	"	A-43	-790	1.2	-770	1.2
9	アモルファスチタニルオキシフタロシアニン	A-10	-770	1.0	-750	1.0
10	"	A-14	-790	1.1	-780	1.1
11	"	A-18	-800	1.1	-790	1.1
12	"	A-38	-795	1.0	-775	1.0
13	Y型チタニルオキシフタロシアニン	A-02	-800	0.9	-780	0.9
14	"	A-15	-785	0.9	-775	0.9
15	"	A-41	-795	0.9	-770	0.9
16	"	A-43	-790	1.0	-770	1.0
17	四型チタニルオキシフタロシアニン	A-09	-800	1.1	-780	1.1
18	"	A-14	-805	1.0	-795	1.0
19	"	A-38	-780	1.1	-770	1.1

*: (ルックス・秒)

【0072】

20【表3】

実施例	例示化合物		1回目		5000回目	
	フタロシアニン	エナミン化合物	V0(V)	E1/2*	V0(V)	E1/2*
20	ε型銅フタロシアニン	A-10	-800	1.3	-780	1.3
21	"	A-27	-800	1.2	-790	1.2
22	"	A-43	-800	1.3	-790	1.3
23	クロロアルミニウムフタロシアニン	A-02	-785	1.2	-770	1.2
24	"	A-12	-795	1.3	-775	1.3
25	"	A-41	-780	1.2	-765	1.2
26	クロロイソシウムフタロシアニン	A-12	-790	1.2	-770	1.2
27	"	A-16	-770	1.1	-750	1.1
28	"	A-37	-790	1.1	-780	1.1
29	ハナシ'オキシフタロシアニン	A-02	-810	1.1	-790	1.1
30	"	A-14	-790	1.2	-770	1.2
31	"	A-38	-800	1.1	-780	1.1
32	クロロカリウムフタロシアニン	A-02	-770	1.1	-755	1.1
33	"	A-27	-795	1.1	-770	1.1
34	"	A-41	-790	1.1	-770	1.1
35	ヒト'キシカ'リウムフタロシアニン	A-14	-800	1.0	-785	1.1
36	"	A-16	-800	0.9	-790	0.9
37	"	A-43	-790	1.0	-770	1.0

*: (ルックス・秒)

【0073】実施例38

τ型無金属フタロシアニン1重量部とテトラヒドロフラン40重量部を、ペイントコンディショナー装置でガラスビーズと共に4時間分散処理した。こうして得た分散液に、エナミン化合物（例示化合物A-02）を2.5重量部、ポリカーボネート樹脂（PCZ-200；三菱ガス化学製）10重量部、テトラヒドロフラン60重量部を加え、さらに30分間のペイントコンディショナー装置で分散処理を行った後、アブリケーターにてアルミ蒸着ポリエステル上に塗布し、膜厚約1.5μの感光体を形成した。この感光体の電子写真特性を、実施例1と同じ

様にして評価した。ただし、印加電圧のみ+5kVに変更した。その結果、1回目の帶電電位（V0）395V、半減露光量（E1/2）1.5ルックス・秒、5000回繰り返し後の帶電電位（V0）385V、半減露光量（E1/2）1.5ルックス・秒と、高感度でしかも変化の少ない、優れた特性を示した。

【0074】実施例39～74

実施例38のτ型無金属フタロシアニン、例示化合物A-02の代わりに、それぞれ表4、表5に示すフタロシアニン類、エナミン化合物を用いる他は、実施例38と同様にして感光体を作製してその特性を評価した。結果

を表4、表5に示す。

【0075】

*【表4】

*

実施例	例示化合物		1回目		5000回目	
	フタロシアニン	エナミン化合物	V0(V)	E1/2*	V0(V)	E1/2*
39	π型無金属フタロシアニン	A-10	390	1.6	370	1.6
40	〃	A-41	400	1.6	380	1.6
41	η型無金属フタロシアニン	A-15	405	1.7	390	1.7
42	〃	A-28	390	1.5	370	1.5
43	シ"フェノキシケ"ルマニウムフタロシアニン	A-09	395	1.5	375	1.5
44	〃	A-14	380	1.6	360	1.6
45	〃	A-43	390	1.5	370	1.5
46	アモルファス-チタニルオキシフタロシアニン	A-10	370	1.2	350	1.2
47	〃	A-14	390	1.3	370	1.3
48	〃	A-18	400	1.2	380	1.2
49	〃	A-38	395	1.3	375	1.3
50	Y型チタニルオキシフタロシアニン	A-02	400	1.2	380	1.2
51	〃	A-15	385	1.1	365	1.1
52	〃	A-41	395	1.3	370	1.3
53	〃	A-43	390	1.3	365	1.3
54	m型チタニルオキシフタロシアニン	A-09	400	1.3	380	1.3
55	〃	A-14	405	1.5	385	1.5
56	〃	A-38	380	1.6	360	1.6

*: (ルックス・秒)

【0076】

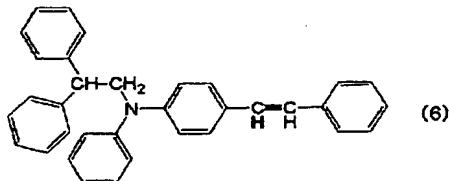
※※【表5】

実施例	例示化合物		1回目		5000回目	
	フタロシアニン	エナミン化合物	V0(V)	E1/2*	V0(V)	E1/2*
57	π型銅フタロシアニン	A-10	390	1.6	370	1.6
58	〃	A-27	400	1.6	380	1.6
59	〃	A-43	405	1.7	390	1.7
60	タロアルミニウムフタロシアニン	A-02	390	1.5	370	1.5
61	〃	A-12	395	1.5	375	1.5
62	〃	A-41	380	1.6	360	1.6
63	タロオイシ"ウムフタロシアニン	A-12	390	1.5	370	1.5
64	〃	A-16	370	1.5	350	1.5
65	〃	A-37	390	1.6	360	1.6
66	ハ"ナシ"ルオキシフタロシアニン	A-02	400	1.4	380	1.4
67	〃	A-14	395	1.5	375	1.5
68	〃	A-38	380	1.5	360	1.5
69	タロナ"リウムフタロシアニン	A-02	385	1.4	365	1.4
70	〃	A-27	395	1.4	370	1.4
71	〃	A-41	380	1.3	370	1.3
72	ヒト"キオ"リウムフタロシアニン	A-14	400	1.2	380	1.2
73	〃	A-15	405	1.3	395	1.3
74	〃	A-43	380	1.2	360	1.2

*: (ルックス・秒)

【0077】

【化15】

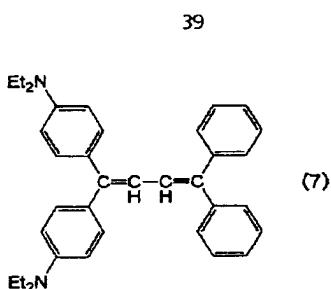


【0078】比較例1

電荷輸送物質として例示化合物A-02の代わりに上記に示す比較化合物(6)を用いる他は、実施例1と同様に感光体を作製してその特性を評価した。その結果、1回目の帶電電位は(V0)-750V、半減露光量(E1/2)は3.1ルックス・秒と感度が低く、また5000回目の帶電電位(V0)は-525V、半減露光量(E1/2)が3.2ルックス・秒であり、繰り返しによる大幅な電位の低下がみられた。

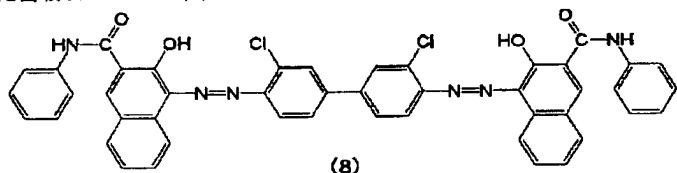
50 【0079】

【化16】



【0080】比較例2

電荷輸送物質として例示化合物A-02の代わりに上記*10



【0082】比較例3

電荷発生物質としてτ型無金属フタロシアニンの代わり

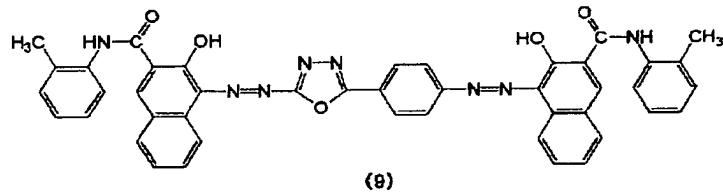
に上記に示す比較化合物(8)を用いる他は、実施例1

と同様にして感光体を作製してその特性を評価した。そ※20

*に示す比較化合物(7)を用いる他は、実施例1と同様に感光体を作製してその特性を評価した。その結果、1回目の帶電電位(V₀)は-720V、半減露光量(E_{1/2})は1.8ルックス・秒と比較的良好な結果であったが、5000回目の帶電電位(V₀)は-220V、半減露光量(E_{1/2})が1.5ルックス・秒であり、繰り返しによる大幅な電位の低下がみられた。

【0081】

【化17】



【0084】比較例4

電荷発生物質としてτ型無金属フタロシアニンの代わりに比較化合物(9)を用いる他は、実施例1と同様に感光体を作製してその特性を評価した。その結果、1回目の帶電電位(V₀)は-800V、半減露光量(E_{1/2})は1.7ルックス・秒と比較的良好な結果であったが、5000回目の帶電電位(V₀)は-320V、半減露光量(E_{1/2})が1.6ルックス・秒であり、繰り返しによる大幅な電位の低下がみられた。

【0085】比較例5

電荷輸送物質として例示化合物A-02の代わりに比較化合物(6)を用いる他は、実施例3.8と同様に感光体を作製してその特性を評価した。その結果、1回目の帶電電位(V₀)は280V、半減露光量(E_{1/2})は3.8ルックス・秒と感度が低く、また5000回目の帶電電位(V₀)は225V、半減露光量(E_{1/2})4.1ルックス・秒であり、繰り返しによる大幅な電位の低下がみられた。

【0086】比較例6

電荷輸送物質として例示化合物A-02の代わりに比較化合物(7)を用いる他は、実施例3.8と同様に感光体を作製してその特性を評価した。その結果、1回目の帶電電位(V₀)は360V、半減露光量(E_{1/2})は1.9ルックス・秒と比較的良好な結果であったが、5000

※の結果帶電電位(V₀)が-755V、半減露光量(E_{1/2})が3.6ルックス・秒と感度不足であった。

【0083】

【化18】

0回目の帶電電位(V₀)は120V、半減露光量(E_{1/2})が2.5ルックス・秒であり、繰り返しによる大幅な電位の低下、及び感度の低下がみられた。

30 【0087】比較例7

電荷発生物質としてτ型無金属フタロシアニンの代わりに比較化合物(8)を用いる他は、実施例3.8と同様にして感光体を作製してその特性を評価した。その結果帶電電位(V₀)が340V、半減露光量(E_{1/2})が4.8ルックス・秒と感度不足であった。

【0088】比較例8

電荷発生物質としてτ型無金属フタロシアニンの代わりに比較化合物(9)を用いる他は、実施例3.8と同様にして感光体を作製してその特性を評価した。その結果帶電電位(V₀)が330V、半減露光量(E_{1/2})が4.9ルックス・秒と感度不足であった。

40 【0089】これらの結果から、電荷発生物質にフタロシアニン類を、電荷輸送物質に一般式(1)、(2)で示されるエナミン化合物を用いると高感度、高耐久性の電子写真感光体が得られることが判明した。

【0090】

【発明の効果】以上から明らかなように、本発明におけるフタロシアニン類とエナミン化合物の組み合わせを用いれば高感度で高耐久性を有する電子写真感光体を提供することができる。

50

【図面の簡単な説明】

【図1】合成例1で得たチタニルオキシフタロシアニン(β型)のX線回折スペクトル図。

【図2】合成例1で得たチタニルオキシフタロシアニン(β型)のIRスペクトル図。

【図3】合成例1で得たチタニルオキシフタロシアニン(アモルファス型)のX線回折スペクトル図。

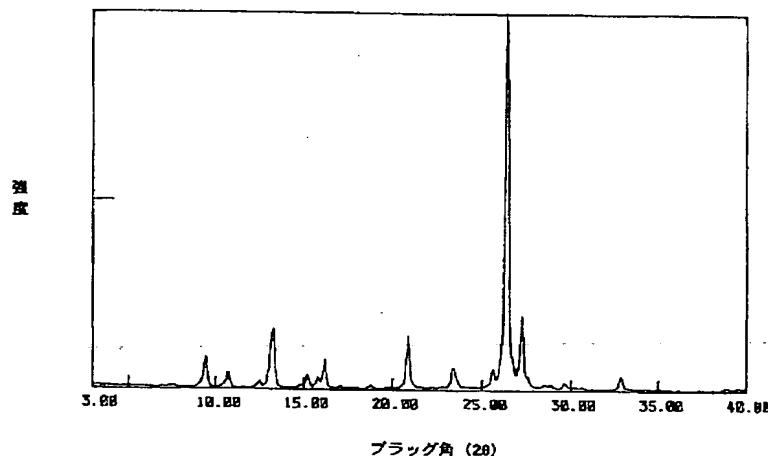
* 【図4】合成例1で得たチタニルオキシフタロシアニン(Y型)のX線回折スペクトル図。

【図5】チタニルオキシフタロシアニン(m型)のX線回折スペクトル図。

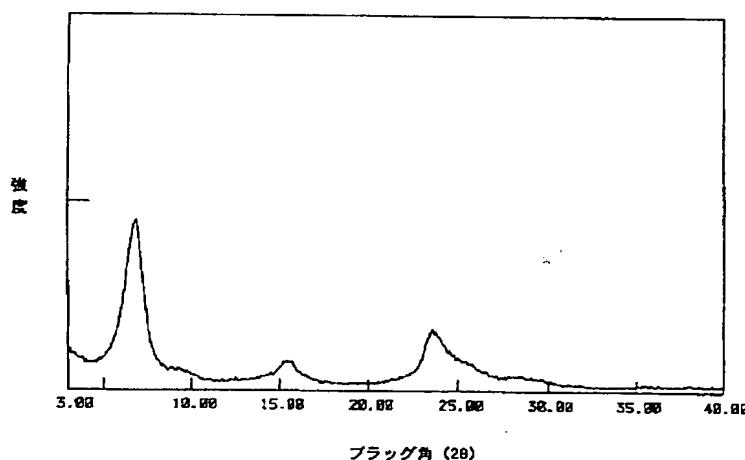
【図6】ジフェノキシゲルマニウムフタロシアニンのX線回折スペクトル図。

*

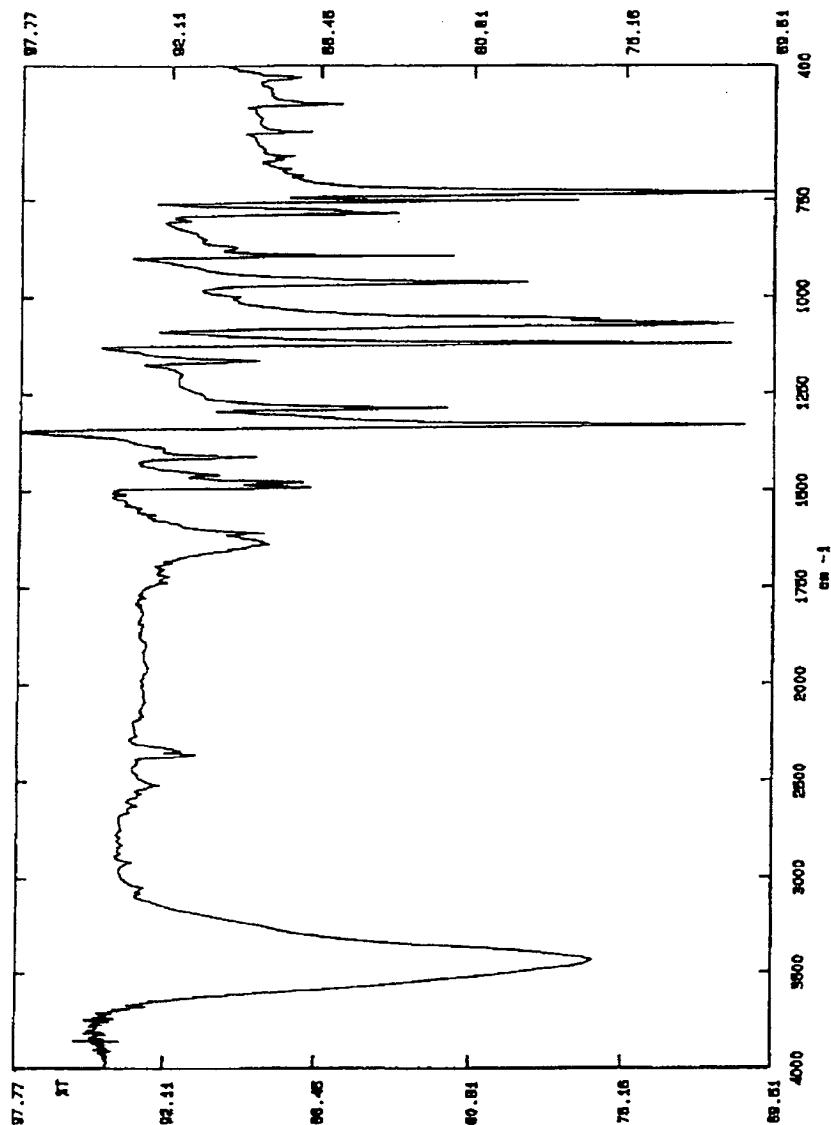
【図1】



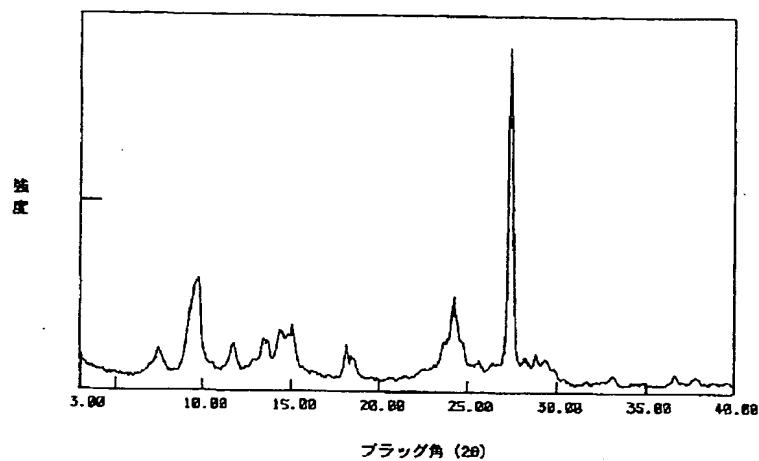
【図3】



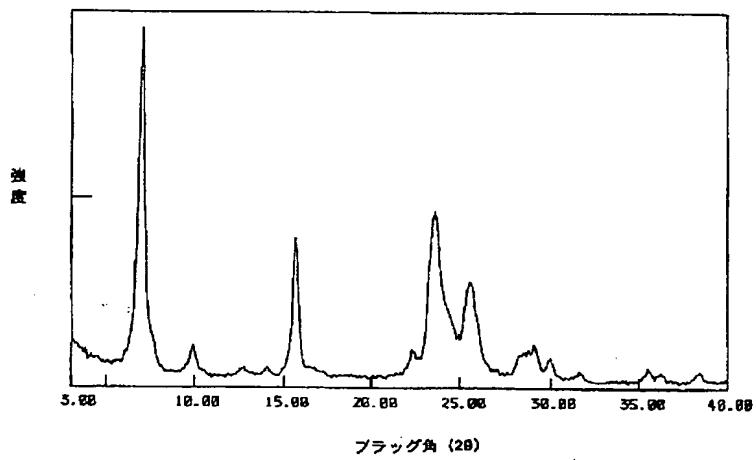
【図2】



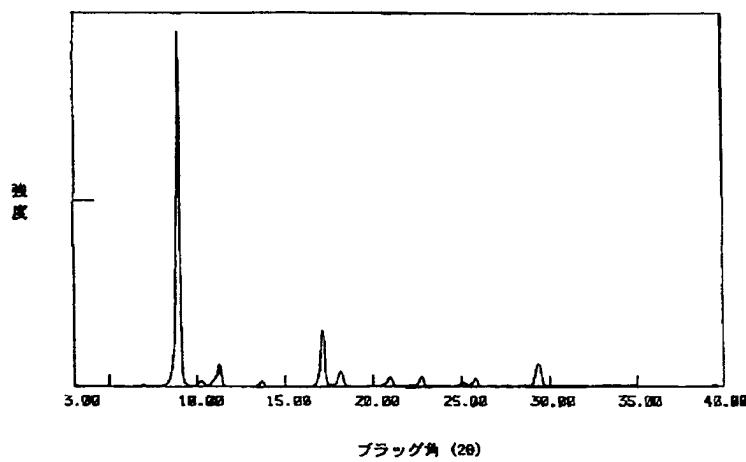
【図4】



【図5】



【図 6】



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成13年12月26日(2001.12.26)

【公開番号】特開平10-69107

【公開日】平成10年3月10日(1998.3.10)

【年通号数】公開特許公報10-692

【出願番号】特願平8-226621

【国際特許分類第7版】

G03G 5/06 313

371

【F I】

G03G 5/06 313

371

【手続補正書】

【提出日】平成13年6月19日(2001.6.1) (Y型)の合成

9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正内容】

【0047】合成例3 チタニルオキシフタロシアニン

合成例2で得たアモルファスのチタニルオキシフタロシアニン2.0g、水28.0g、クロロベンゼン6.0gを50°Cで加熱攪拌した。1時間後、室温まで冷却し、結晶を濾取し、メタノールで洗浄した。乾燥してY型チタニルオキシフタロシアニン1.7gを得た。この化合物のX線回折スペクトルを図4に示す。

THIS PAGE BLANK (USPTO)